

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370101661		
法人名	医療法人 日隈会		
事業所名	グループホーム悠々居(1階)		
所在地	熊本市中央区萩原町9-45		
自己評価作成日	平成27年2月10日	評価結果市町村受理日	平成27年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成27年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①母体病院があることにより、医師・看護師が対応できる体制ができており、救急時も早く対応できます。
 ②いつまでも穏やかに地域で生活できるように介護理念を掲げ、身体面、精神面のサポートをすることにより安心して生活できるように支援しています。
 ③母体病院の集合教育への参加、院外研修参加により職員の知識、意識の向上に努めています
 ④施設周辺の散歩、地域サロン、夏祭りなどに参加することで地域との交流に努めています。清祥庵での地域サロン体験もできるようになりました。⑤認知症専門士が2名おり、スタッフへの教育に携わっていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

*3階建てのホームは、各フロアーが1つのユニットとして、其々、6人の入居者が生活している。現在入居者全てが女性ということもあり、屋内はピンクのカーテンで明るく優しい雰囲気を作り、各居室には全てドレッサーとソファが配置されており、心地良い部屋づくりへの配慮が感じられた。
 *献立は、母体医療法人の管理栄養士が立てたものを参考に、それぞれのユニットの職員が朝・昼・夕食の全てを作り、健康に配慮した美味しい手作りの食事が提供されている。また、食材は、近隣のスーパーから、旬の物を購入し、地域との交流も大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつまでも地域で生活できるように介護理念を掲げ、なるべくその人らしく生活できるよう、地域の長寿会への入会、又はいきいきサロンへの参加等を行っています。又のばらの開設で地域の人との交流もふえると思います。	開設時に作られた理念の見直しを行い、地域密着型事業所としての意義を織り込んだ理念が作られている。毎月の職員会議では、理念を唱和し、共有に努めている。	介護理念について話し合う機会を重ねることで、目指すホームの在り方がより明確になり、職員の心も一つとなり、ケアの拠り所として定着するものと期待できる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材は近所の商店を利用、おやつなど買い物をお天気の良い日に一緒に行ったり、周辺の散歩などで近隣の人とあいさつしたり、できるだけ地域の人と話ができるように心がけています。	母体が精神科の病院であり、以前はホーム自体が地域に積極的に開かれた施設ではなかったが、運営推進会議へ地域代表の出席が得られるようになってから、地域との交流も次第に増えてきている。年に2回の「花祭り」「紅葉祭り」の広報を積極的に行い、より多くの地域住民に参加を呼び掛ける等の取組で、更に地域とのつながりが広がると期待できる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等活用し、認知症の講義や、AED等の使用法の説明に参加してもらったりし、施設へきてもらい交流してもらっています。ヘルパー、介護福祉士の実習を受け入れています。地域の人と防災の話し合いも行われています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各施設の利用状況や、運営委員会参加者の意見で経験の意見や希望を生かし、今後の予定を考えてたりしています。地域行事への参加も考えている所です。	運営推進会議は、系列の小規模多機能事業所・有料老人ホームと一緒に開催し、校区社協長・町内会長・民生委員・包括職員等の参加を得ている。ホームから、活動報告に加え、「花まつり」等行事案内を行い、地域住民への参加呼びかけを依頼したり、社協長から「いのちのバトン制度」について情報を得るなど、委員を通してホームと住民が近づく機会に役立っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、その他母体病院とのコラボでの行事への招待連絡等を行っています。	市の担当課に運営推進会議開催の案内を出しているものの、市からの返事や出席は一度も得られていない。グループホームの数が多く、毎回の出席は難しいと理解できるが、グループホームの実態を市町村担当者に知ってもらい、情報を共有していくことは大切と思われることから、様々な機会を通して、市へ継続的に働きかけ、連携する体制づくりへの更なる工夫を期待したい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体束縛禁止」の文言を掲げ、教育を行い、職員に啓発を図り、身体束縛は一切していません。	訪問調査日の入居者の自由な生活ぶりから、「身体拘束をしないケア」への取組実践が観察された。しかし、建物の2F,3Fへの出入りが制限されていることから、見守り等の工夫による改善策が必要と思われた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	母体病院での集合教育に、高齢者虐待についての研修を行っており、ホーム内でもスタッフ勉強会を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	母体病院での集合教育にて、権利擁護についての研修を行っており、ホーム内でもスタッフの勉強会を行い職員の意識向上に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、契約書、重要事項説明書を必ず読み、不明点はその都度質問してもらい、納得同意してもらってから、契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱(意見箱)を玄関に届け、月1回の委員会を行っており、改善事項については、内容を記載し、意見を提出された方がはっきりしている場合改善内容をお渡ししています。	全ての家族に、運営推進会議の開催案内を出し、意見や要望を聞く取り組みが行なわれているが、会議に出席する家族が少ないのが現状のように見られた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろよりスタッフからの意見を検討し、必要時は業務内容を変更できるように検討しています。また月1回の業務内容改善委員会、運営委員会を行っています。月1回のミーティングを行って改善点を見出しています。	職員は、毎月1回、約30分程度開催される業務改善会議で意見を述べるができるが、日々の介護についての気付きや提案等は、その都度検討し、運営に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの年間目標などを記入する用紙に記入することにより意識の向上がでけるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、毎月の集合教育、その他施設外の研修への参加できるように配慮し、各人の向上に努めています。個人の資格獲得等への応援も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会への参加、又ほかの施設見学をお願いしたり、他の見学を受け入れたりしています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン作成に当たり、希望をきき、面会時に家族と話すことにより要望がないか、関わりながら問いかけを行っています。訴えに対し時間をかけ落ち着いて対話を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス担当者会議へ参加してもらうことにより、希望を聞き、どのようにしたらよいか、その場で話し合いを行っています。なるべく希望に添う支援をこころがけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族・本人の意向に沿ったサービスを取り入れ、訪問歯科、その他、他科受診時介護タクシーを利用したりしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることへの支援(洗濯物干し、たたみ、廊下の拭き掃除、料理の盛り付け等)一緒に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り面会に来てもらって、面会がないところへは、電話での状態報告しています。運営推進会議のしおりを送付するとき状態も少し記載しています。面会時状態の報告も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の知り合いの面会、外来受診でのスタッフとの関わり等を大切に行っています。他の階のスタッフ、他の施設のスタッフ等が来居時入居者様に声掛けしています。	系列事業所からの入居者が多く、法人全体で開催される「花まつり」「紅葉まつり」等に参加し、馴染みの人々と出会うこともあるようだが、要望を聞き取って支援に繋げるまでには至っていないように見られた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間で過ごせる様、座り位置を考慮しながら楽しく過ごせる様にしています。又トラブル時は早急に対応しています。皆で雑談し冗談を言ったりしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された後でも、家族の希望により、対応できる状態であれば、入居受け入れし状態により、母体病院への入院を提案しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の行動を観察し、各階スタッフで対応を検討し、家族への問い合わせを行ったり、他の階へ助言をお願いしたりしています。	入居者の背景・思い等を把握するために、本人の写真を中心にして、聴き取りした「介護への要望」「不安・苦痛・悲しみ・嬉しい事・やりたいこと」等を書き込み、ケアへの一助としている。	本人への問いかけを増やすことで、更に思いや意向への理解が深まり、理念に掲げられている「その人らしく地域で暮らし続ける支援」の質が高まると期待できる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時記録により情報を得たり、家族への問い合わせを行いなじみの暮らしができるよう普段使いの物品を持ってきたり、暮らし方、環境を聴き経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体的には1日2回のバイタルチェックを行い、対話に努めることでその人の状態を把握するように努め、その人に合った支援をするよう心掛けています。異常の早期発見に努めるようにしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、参加できない人は回覧を確認するようにし、スタッフ間同士で情報の共有に努めています。一つの試みを行いできない場合は話し合い別の方法を行うよう次のステップに進むようにしています。	ケアプランに基づいて介護計画書を作成し、長期・短期の目標に沿った具体的なサービス内容を定め、日常生活の支援を行っている。入居者の状況・状態は経過記録に残し、情報を共有し、モニタリング・ケアカンファレンス等を実施してケアプランの見直しに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録にその日の状態、気づきどのようにしたかを記入し、スタッフ間で把握するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意向、家族の意見を聞いたうえで、病状の変化により入院、どうしても家族が付き添えない場合は、他科受診等スタッフで対応したりしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	長寿会への入会、老人会への協力要請、母体病院への受診等を行い日々の暮らしを楽しめるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は日隈病院の医師がほとんどで、眼科、泌尿科への受診も行っています。希望される場合はその他希望病院への受診も可能としています。歯科は訪問歯科により治療を行っています。	利用者の希望に沿って、かかりつけ医の継続受診を支援しているが、入居者の多くが母体医療法人の医師を主治医としており、往診を受けることができている。また、訪問歯科の利用や、毎日2回行うバイタルチェックで看護師による健康管理も行われており、安心できる環境となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日看護師、准看護師が施設内に勤務できるようにし、夜間はほかの施設へ応援協力を依頼し、体制作りを行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体日隈病院がほとんどの入院であるが、他病院への入院でも、情報提供書を渡したり面会へ行ったり、急用時、急変時は電話で情報を交換したりしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急の場合はほかの病院へ搬送を行いますが、家族が望む場合は、対応できるよう、家族と話し合いを持ちながら取り組みます。	「看取り介護の視点・具体的な支援の内容・方法」等をまとめた「看取りに関する指針」を作成し、本人や家族の希望が聞かれた際の対応をまとめている。しかし、これまでにホームでの看取りの例はなく、看取りに関するホームの考え方等についての説明や、職員間の共有、研修等はこれからとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	運営推進会議などで、消防から救急時の対応、AED使用法等の勉強を行い、あわてないように対応できるよう話しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設については昼想定、夜間想定での火災訓練を行い、震災時は各人が集散するよう話してあります。運営推進会でも地域の防災対策作りなど話し合いを行っています。地域防災との話し合いも行うようにしています。	ホーム独自での避難訓練の実施と、法人の防火管理者指導のもと全体の「緊急時連絡網テスト」等に参加して災害に備える意識を高めている。また、運営推進会議委員の自治会長を通して、春竹校区住民との協力体制も作られつつある。ホームが3階建てであり、介護度が高い入居者が災害時に避難する際の方法について検討が行われている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けに際し、人権を尊重した言葉使い対応にこころがけ、拒否がある場合は時間をずらしたり、人を変えて行ったりしています。	入居者が、自分の精神状態や記憶に不安な様子を示す際は、居室でゆっくり話を聞き、心を安定させ、自信を取り戻せるように励まし、誇りを傷つけない対応に心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケア拒否については時間をずらしたり、予定変更の行ったり、希望に添えるようにしています。どうしたいか要望を聞くように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩が好きな人はできるだけ損散歩を行い、歌が好きな人にはビデオを見たり、できるだけ希望に添って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の洋服選び、散髪は美容室へ依頼し支援しています。化粧も楽しんでおられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備できること(もやしの根切り)と一緒に、行ったり配膳をできる人は準備したあと食卓を囲んでいます。食器洗いの手伝いも一緒に行っています。	母体法人の管理栄養士が立てた献立表を参考に、近隣のスーパーから食材を購入し、職員が朝・昼・夕食を調理し、美味しい料理を提供している。味・温度・食べやすさ・彩り・盛り付けへの配慮もある。家族がホームの食事を利用者と一緒に食べられる機会等があれば、日頃どのように配慮された食事が提供されているか等、家族の理解も深まり、よりホームが提供しているサービスの質・内容も伝わり、家族の安心に繋がると思われる。	入居時に嗜好調査は行われているが、十分に活かされているようには見えなかった。入居者の「食べたい物」を聞き取り、食事を提供する機会も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた献立でバランスのとれた食事作りを行っており高齢者に適さないもの、又嫌いなものについては代替えも食も行っていきます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行っており、自立の人は確認しています。又必要な人は介助しています。寝る前は義歯を預かり除菌剤を使用しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレの排泄で、介助を行っており、立位困難な方については紙おむつ使用し、その人に必要なケアを行って「います。訴えない人には時間で誘導を行っています。	現在、排泄介助の必要な人は少なく、見守り程度で対応されているが、血圧や排便はチェックして記録をとり、状態によっては、バナナやヨーグルト等が提供され、快適な排泄への支援が行なわれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時・3時にお茶の時間を設け、他に希望される時、状態に応じ水分補給、又主治医と話し合い下剤などの使用を行っています。排便状態のチェックも行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否がある場合は時間をずらしたり、呼びかけスタッフを変えたり、日程を別の日へ調整したりして入浴してもらっています。一人一人ゆっくりと入浴してもらっています。	一日おきの入浴を支援している。入浴に気が進まない場合は、日程や担当を変更して、無理のない状態での入浴支援に心掛けている。日頃から入居者と職員とのコミュニケーションを図ることで、信頼関係を作り、心地よい入浴への支援が可能になると考え、コミュニケーションを大切にしている。菖蒲湯に加え、季節の花等を浮かべる「花湯」も検討しており、実践を期待したい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の調整、空調の調整に昼間の傾眠を避けるように声掛けしたり、散歩などを行い、必要時は主治医指示にて睡眠導入剤などを使用しています。添い寝も検討しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関する服用マニュアルを作成し、副作用の観察など注意し、症状の変化があれば主治医へ報告しその都度対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることの役割を持ってもらい、その日にできるか本人に確認し本人の意思に沿って、日常生活ができるように支援しています。家事の手伝いもしてもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に施設周辺の散歩を行っており、母体病院で行われる講話・地域で行われるサロンや夏祭りなどに参加するように支援しています。家族での外出も希望時行っています。	母体法人の広大な敷地の一画に立地しており、ホーム周辺への散歩や、敷地内で行われる「花祭り」「もみじ祭り」等への参加もあるが、本人の希望に沿った外出までは、至っていないように見られた。今年の花見は、敷地内ではなく、近隣公園に出かけることが検討されており、実現を期待したい。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の金銭管理は母体病院事務にて行っていて個人では管理できていないが、本人が買い物を希望された場合支援できる体制はあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時電話したり、家族からの電話も取り次ぎ本人と代わりお話してもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一定の室温を保つよう温度計・湿度計を置き管理日差しがまぶしい時はカーテンを閉め、お花教室の入居者様の作品を飾ったり、行事の写真を飾ったりして、思い出してもらったりします。	オープンキッチンのあるリビングの一画に、テレビを囲んでソファを配置し、季節の花を飾って寛ぎのスペースとしている。朝・昼・夕食を準備しながら職員と入居者が会話したり、テレビを楽しんだり、楽しく「つどう」家庭的で心地よい共有空間となっている。見やすい大きな文字のカレンダーや「おひな様」の壁掛け、お花教室の作品等を飾り、季節感を大切にしたり、暖かみのある雰囲気づくりが工夫されている。トイレも清掃が行き届いており清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人個人のいたい場所ができるように支援し、居間で過ごしたり、個人のお部屋で過ごしたりその人がいたい場所で過ごされています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きなお花を飾り、お気に入りの写真を飾ったり使い慣れた化粧品を持ってきてもらったりしています。普段使用している寝具類も持ってきてもらっています。	全ての居室にピンクのカーテンが掛けられ、ドレッサーとソファが配置されており、季節の花も飾って、女性らしい暖かみのある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることを生活の中で探しながら、できることを見守りながら本人にしてもらっています。一人一人自分の過ごしたいように過ごしてもらっています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370101661		
法人名	医療法人 日隈会		
事業所名	グループホーム悠々居(2階)		
所在地	熊本市中央区萩原町9-45		
自己評価作成日	平成27年2月	評価結果市町村受理日	平成27年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成27年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①母体病院があることにより、医師・看護師が対応できる体制ができており、救急時も早く対応できます。 ②いつまでも穏やかに地域で生活できるように介護理念を掲げ、身体面、精神面のサポートをすることにより安心して生活できるように支援しています。 ③母体病院の集合教育への参加、院外研修参加により職員の知識、意識の向上に努めています ④施設周辺の散歩、地域サロン、夏祭りなどに参加することで地域との交流に努めています。清祥庵での地域サロン体験もできるようになりました。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつまでも地域で生活できるように介護理念を掲げ、なるべくその人らしく生活できるよう、地域の長寿会への入会、又はいきいきサロンへの参加等を行っています。又のばらの開設で地域の人とよりふれあえると思っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材は近所の商店を利用、おやつなど買い物、お天気の良い日に一緒に行ったり、周辺の散歩などで近隣の人とあいさつしたり、ボランティアの人も来所してもらっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等活用し、認知症の講義や、AED等の使用法の説明に参加してもらったり、施設へきてもらい交流してもらっています。ヘルパー、介護福祉士の実習を受け入れています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各施設の利用状況や、運営委員会参加者の意見で経験の意見や希望を生かし、今後の予定を考えてたりしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、その他母体病院とのコラボでの行事への招待連絡等を行っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体束縛禁止」の文言を掲げ、教育を行い、職員に啓発を図り、身体束縛は一切していません。2階入り口の開放を時間でできないか計画している所です。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	母体病院での集合教育に、高齢者虐待についての研修を行っており、ホーム内でもスタッフ勉強会を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	母体病院での集合教育にて、権利擁護についての研修を行っており、ホーム内でもスタッフの勉強会を行い職員の意識向上に努めています。その場面場面での指導を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、契約書、重要事項説明書を必ず読み、不明点はその都度質問してもらい、納得同意していただいてから、契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱(意見箱)を各階に届け、月1回の委員会を行っており、改善事項については、内容を記載し、意見を提出された方がはっきりしている場合改善内容をお渡ししています。運営推進委員会でも公表し理解を求めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろよりスタッフからの意見を検討し、必要時は業務内容を変更できるように検討しています。また月1回の業務内容改善委員会、運営委員会を行っています。月1回のミーティングを行っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの年間目標などを記入する用紙に記入することにより意識の向上がでけるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、毎月の集合教育、その他施設外の研修へ参加できるように配慮し、各人の知識向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会議会への参加、又ほかの施設見学をお願いしたり、他の見学を受け入れたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン作成に当たり、希望をきき、面会時に家族と話すことにより要望がないか、必ず確認しながらプランに入れています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス担当者会議へ参加してもらうことにより、希望を聞き、どのようにしたらよいか、その場で話し合いを行っています。なるべく希望に添う支援をこころがけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族・本人の意向に沿ったサービスを取り入れ、訪問歯科、その他他科受診への援助について説明支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることへの支援(洗濯物干し、たたみ等)一緒に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り面会に来てもらって、面会がないところへは、電話での状態報告しています。電話で状態を説明した内容を記録に残しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の知り合いの面会、外来受診でのスタッフとの関わり等馴染みの関係を大切に行っています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間で過ごせる様、座り位置を考慮しながら楽しく過ごせる様にしています。又トラブル時は早急に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された後でも、家族の希望により、対応できる状態であれば、入居受け入れし状態により、母体病院への入院を提案しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の行動を観察し、各階スタッフで対応を検討し、家族への問い合わせを行ったり、他の階へ助言をお願いしたりしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時記録により情報を得たり、家族への問い合わせを行いなじみの暮らしができるよう普段使いの物品を持ってきたり、暮らし方、環境を聴き経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体的には1日2回のバイタルチェックを行い、対話に努めることでその人の状態を把握するように努め、その人に合った支援をするよう心掛けています。異常の早期発見に努めるようにしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、参加できない人は回覧を確認するようにし、スタッフ間同士で情報の共有に努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録にその日の状態、気付きどのようにしたかを記入し、スタッフ間で把握するようにしています。問題点についてはその都度スタッフ間で話し合っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意向、家族の意見を聞いたうえで、病状の変化により入院、どうしても家族が付き添えない場合は、他科受診等スタッフで対応したりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	長寿会への入会、老人会への協力要請、母体病院への受診等を行い日々の暮らしを楽しめるように支援しています。いきいきサロンへの参加も行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は日隈病院の医師がほとんどで、眼科、泌尿科への受診も行います。希望される場合はその他希望病院への受診も可能としています。歯科は訪問歯科で馴染みの関係を大切にしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日看護師、准看護師が施設内に勤務できるようにし、夜間看護師でない時はほかの施設へ応援協力を依頼し、体制作りを行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体日隈病院がほとんどの入院であるが、他病院への入院でも、情報提供書を渡したり面会へ行ったり、急用時、急変時は電話で情報を交換したりしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急の場合はほかの病院へ搬送を行いますが、家族が望む場合は、対応できるよう、家族と話し合いを持ちながら取り組みます。入居時話し合いを検討しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	運営推進会議などで、消防から救急時の対応、AED使用法等の勉強を行い、あわてないように対応できるよう話しています。地域の人にも火災訓練に参加してもらいました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設については昼想定、夜間想定での火災訓練を行い、震災時は各人が集散するよう話してあります。運営推進会でも地域の防災対策作りなど話し合いを行っています。地域の防災との連携について話をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けに際し、人権を尊重した言葉使い対応にこころがけ、拒否がある場合は時間をずらしたり、人を変えて行ったりしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケア拒否については時間をずらしたり、予定変更の行ったり、希望に添えるようにしています、。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩が好きな人はできるだけ損散歩を行い、歌が好きな人にはビデオを見たり、できるだけ希望に添って支援しています。かなり以前のカラオケも実施しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の洋服選び、散髪は美容室へ依頼し支援しています。化粧も楽しんでおられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備できること(もやしの根切り)を一緒に行ったり配膳をできる人は準備したあと食卓を囲んでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた献立でバランスのとれた食事作りを行っており高齢者に適さないもの、又嫌いなものについては代替えも食も行っていきます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行っており、自立の人は確認しています。又必要な人は介助しています。寝る前は義歯を預かり除菌剤を使用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレの排泄で、介助を行っており、立射困難な方については紙おむつ使用し、その人に必要なケアを行って「います。家族にも了解をもらっています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時・3時にお茶の時間を設け、他に希望される時、状態に応じ水分補給、又主治医と話し合い下剤などの使用を行っています。腹部のマッサージや排便チェックを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否がある場合は時間をずらしたり、呼びかけスタッフを変えたり、日程を別の日へ調整したりして入浴してもらっています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の調整、空調の調整に昼間の傾眠を避けるように声掛けしたり、散歩などを行い、必要時は主治医指示にて睡眠導入剤などを使用しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関する服用マニュアルを作成し、副作用の観察など注意し、症状の変化があれば主治医へ報告しその都度対処しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることの役割を持ってもらい、その日にできるか本人に確認し本人の意思に沿って、日常生活ができるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に施設周辺の散歩を行っており、母体病院で行われる講話・地域で行われるサロンや夏祭りなどに参加するように支援しています。家族での外出も希望時行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の金銭管理は母体病院事務にて行っていて個人では管理できていないが、本人が買い物希望された場合支援できる体制はあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時電話したり、家族からの電話も取り次ぎ本人と代わりお話ししてもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一定の室温を保つよう温度計・湿度計を置き管理日差しがまぶしい時はカーテンを閉め、お花教室の入居者様の作品を飾ったり、行事の写真を飾ったりして、思い出してもらっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人個人のいたい場所ができるように支援し、居間で過ごしたり、個人のお部屋で過ごしたりその人がいたい場所で過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きなお花を飾り、お気に入りの写真を飾ったり使い慣れた化粧品を持ってきてもらったりしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることを生活の中で探しながら、全てを援助するのではなく、できることを見守りながら本人にしてもらっています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370101661		
法人名	医療法人 日隈会		
事業所名	グループホーム悠々居(3階)		
所在地	熊本市中央区萩原町9-45		
自己評価作成日	平成27年2月	評価結果市町村受理日	平成27年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成27年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①母体病院があることにより、医師・看護師が対応できる体制ができており、救急時も早く対応できます。
 ②いつまでも穏やかに地域で生活できるように介護理念を掲げ、身体面、精神面のサポートをすることにより安心して生活できるように支援しています。
 ③母体病院の集合教育への参加、院外研修参加により職員の知識、意識の向上に努めています
 ④施設周辺の散歩、地域サロン、夏祭りなどに参加することで地域との交流に努めています。清祥庵での地域サロン体験もできるようになりました。
 ⑤認知症専門士がおり、介護度4・5の方も対応し他のスタッフの手本となるように勤務しています。
 ⑥車イス使用の人もおられ、褥創発生に注意しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつまでも地域で生活できるように介護理念を掲げ、なるべくその人らしく生活できるよう、地域の長寿会への入会、又はいきいきサロンへの参加等を行っています。又(のばら)の開設で地域の人とよりふれあえると		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材は近所の商店を利用、おやつなど買い物、お天気の良い日に一緒に行ったり、周辺の散歩などで近隣の人とあいさつしたり、子どもさんを通して会話をしたりしています。ボランティアにも来所していただく支援事業も開始しました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等活用し、認知症の講義や、AED等の使用法の説明に参加してもらったりし、施設へきてもらい交流してもらっています。ヘルパー、介護福祉士の実習を受け入れています。認知症専門士在注しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各施設の利用状況や、運営委員会参加者の意見で経験の意見や希望を生かし、今後の予定を考えてたりしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、その他母体病院とのコラボでの行事への招待連絡等を行っています。評価や改善点などは、直接介護課担当者にとって点検を受けています、改善点は厳守しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体束縛禁止」の文言を掲げ、教育を行い、職員に啓発を図り、身体拘束は一切していません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	母体病院での集合教育に、高齢者虐待についての研修を行っており、ホーム内でもスタッフ勉強会を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	母体病院での集合教育にて、権利擁護についての研修を行っており、ホーム内でもスタッフの勉強会を行い職員の意識向上に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、契約書、重要事項説明書を必ず読み、不明点はその都度質問してもらい、納得同意していただいたから、契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱(意見箱)を各階に届け、月1回の委員会を行っており、改善事項については、内容を記載し、意見を提出された方がはっきりしている場合改善内容を説明しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろよりスタッフからの意見を検討し、必要時は業務内容を変更できるように検討しています。また月1回の業務内容改善委員会、運営委員会を行っています。月1回のミーティングを行っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの年間目標などを記入する用紙に記入することにより意識の向上ができるように努めています。時間代休等いつでもとれる体制をとっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、毎月の集合教育、その他施設外の研修への参加できるように配慮し、各人の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会議会への参加、又ほかの施設見学をお願いしたり、他の見学を受け入れたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン作成に当たり、希望をきき、面会時に家族と話すことにより要望がないか、関わりながら問いかけを行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス担当者会議へ参加してもらうことにより、希望を聞き、どのようにしたらよいか、その場で話し合いを行っています。なるべく希望に添う支援をこころがけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族・本人の意向に沿ったサービスを取り入れ、訪問歯科、その他他科受診へのヘルパー利用等の活用についての説明を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護度の高い方が多いので、なかなか難しい部分もありますが、出来る方には、台拭きなど手伝ってもらっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り面会に来てもらって、面会がないところへは、電話での状態報告しています。面会の際は家族との会話も大切にしています。運営推進会議のしお리를送付するとき状態も少し記載しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の知り合いの面会、外来受診でのスタッフとの関わり等を大切に行っています。他の階のスタッフとも馴染みになれるよう、他の階からの応援をしたりしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間で過ごせる様、座り位置を考慮しながら楽しく過ごせる様にしています。又トラブル時は早急に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された後でも、家族の希望により、対応できる状態であれば、入居受け入れし状態により、母体病院への入院を提案しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の行動を観察し、各階スタッフで対応を検討し、家族への問い合わせを行ったり、他の階へ助言をお願いしたりしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時記録により情報を得たり、家族への問い合わせを行いなじみの暮らしができるよう普段使いの物品を持ってきたり、暮らし方、環境を聴き経過の把握に努めています。入居者様との対話も大切にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体的には1日2回のバイタルチェックを行い、対話に努めることでその人の状態を把握するように努め、その人に合った支援をするよう心掛けています。異常の早期発見に努めるようにしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、参加できない人は回覧を確認するようにし、スタッフ間同士で情報の共有に努めています。日々の状態の申し送りも大切にしています		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録にその日の状態、気づきどのようにしたかを記入し、スタッフ間で把握するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意向、家族の意見を聞いたうえで、病状の変化により入院、どうしても家族が付き添えない場合は、他科受診等スタッフで対応したりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	長寿会への入会、老人会への協力要請、母体病院への受診等を行い日々の暮らしを楽しめるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は日隈病院の医師がほとんどで、眼科、泌尿科への受診も行っています。希望される場合はその他希望病院への受診も可能としています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日看護師、准看護師が施設内に勤務できるようにし、夜間はほかの施設へ応援協力を依頼出来る体制作りを行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体日隈病院がほとんどの入院であるが、他病院への入院でも、情報提供書を渡したり面会へ行ったり、急用時、急変時は電話で情報を交換したりしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急の場合はほかの病院へ搬送を行いますが、家族が望む場合は、対応できるよう、家族と話し合いを持ちながら取り組みます。入院後も私鉄での生活を望まれる場合は検討します。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	運営推進会議などで、消防から救急時の対応、AED使用法等の勉強を行い、あわてないように対応できるよう話しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設については昼想定、夜間想定での火災訓練を行い、震災時は各人が集散するよう話してあります。運営推進会でも地域の防災対策作りなど話し合いを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けに際し、人権を尊重した言葉使い対応にこころがけ、拒否がある場合は時間をずらしたり、人を変えて行ったりしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケア拒否については時間をずらしたり、予定変更の行ったり、希望に添えるようにしています、。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩が好きな人はできるだけ損散歩を行い、歌が好きな人にはビデオを見たり、できるだけ希望に添沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の洋服選び、散髪は美容室へ依頼し支援しています。化粧も楽しんでおられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備できること(もやしの根切り)を一緒に行ったり配膳をできる人は準備したあと食卓を囲んでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた献立でバランスのとれた食事作りを行っており高齢者に適さないもの、又嫌いなものについては代替えも食も行っていきます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行っており、自立の人は確認しています。又必要な人は介助しています。寝る前は義歯を預かり除菌剤を使用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレの排泄で、介助を行っており、立射困難な方については紙おむつ使用し、その人に必要なケアを行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時・3時にお茶の時間を設け、他に希望される時、状態に応じ水分補給、又主治医と話し合い下剤などの使用を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否がある場合は時間をずらしたり、呼びかけスタッフを変えたり、日程を別の日へ調整したりして入浴してもらっています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の調整、空調の調整に昼間の傾眠を避けるように声掛けしたり、散歩などを行い、必要時は主治医指示にて睡眠導入剤などを使用しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関する服用マニュアルを作成し、副作用の観察など注意し、症状の変化があれば主治医へ報告しその都度対処しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることの役割を持ってもらい、その日にできるか本人に確認し本人の意思に沿って、日常生活ができるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に施設周辺の散歩を行っており、母体病院で行われる講話・地域で行われるサロンや夏祭りなどに参加するように支援しています。家族での外出も希望時行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の金銭管理は母体病院事務にて行っていて個人では管理できていないが、本人が買い物希望された場合支援できる体制はあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時電話したり、家族からの電話も取り次ぎ本人と代わりお話ししてもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一定の室温を保つよう温度計・湿度計を置き管理日差しがまぶしい時はカーテンを閉め、お花教室の入居者様の作品を飾ったり、行事の写真を飾ったりして、思い出してもらっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人個人のいたい場所ができるように支援し、居間で過ごしたり、個人のお部屋で過ごしたりその人がいたい場所で過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きなお花を飾り、お気に入りの写真を飾ったり使い慣れた化粧品を持ってきてもらったりしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることを生活の中で探しながら、できることを見守りながら本人にしてもらっています。		